News Release

2016年1月1日

ランクセス株式会社 代表取締役社長年頭のご挨拶

ランクセス株式会社

年頭にあたり謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返りますと、ランクセス株式会社にとって大きな転換の年となりました。1 月に、ラインケミージャパン株式会社を経営統合し、さらにランクセスグループ全体の事業再編に伴い、14 のビジネスユニットから 10 ビジネスユニット体制へと事業部の統合を図りました。また 7 月には、代表取締役社長の交代を発表し、新しい経営体制のもと、日本での事業を推進してまいりました。

ドイツ本社においては、CEO マティアス・ツァハトら経営委員会メンバーの主導により、2014 年に開始した事業再構築プログラム「Let’s LANXESS again（LLA）」にグループ全体で取り組みました。経営の効率化とコスト削減、製造部門と事業ポートフォリオの競争力強化などを進め、プログラム開始以降、順調な成果を上げています。

このような事業再構築プログラムの迅速な実施に加えて、昨年 9 月には、新しい企業文化の醸成を促すべく、従業員向けの新たな「価値基準」ならびに「行動指針」を導入しました。ランクセスグループの経営陣、社員の双方で新たな企業文化の推進に取り組むことで、来るべき成長期に向けて高い成果を達成することができる企業へと進化してまいります。

ランクセスの 2016 年の計画

2016 年に目を向けますと、ランクセスグループとしては、合成ゴム事業の分離、そしてサウジアラムコ社との合弁会社設立という新たな転換期を迎えます。ランクセスの中核事業の 1 つである合成ゴム事業に、強力なパートナーを得ることで、一貫したバリューチェーンを通して合成ゴムを製造することが可能となり、世界市場において最も優位性をもつサプライヤーの 1 つとなります。

日本においては、2020 年に東京で開催されるオリンピック・パラリンピックに向けた建設プロジェクトが着々と進められ、その経済効果も見え始めています。ランクセスは、これらの建築プロジェクトに向けて、東京都心部の「持続可能な発展（Sustainable Development）」を実現する製品ソリューションを提供していきます。ランクセスの無機顔料「バイフェロックス®（Bayferrox®）」および「カラーサーム®（Colortherm®）」は、コンクリート敷石、アスファルト、ファサード、陸上競技用トラック、人工芝など、建築・土木分野の広範な用途向けに豊富な色彩を取り揃えており、建設会社が 2020 年の東京オリンピック向けの建設プロジェクトで入札を勝ち取るために必要とされる「スタイル」「デザイン」「品質」「耐久性」に、付加価値をもたらすことが可能です。

ランクセスはまた、「持続可能なモビリティ（Sustainable Mobility）」を実現する最先端の「軽量化ソリューション」を提供していきます。自動車メーカー向けに、熱可塑性コンポジットシート「テペックス®（TEPEX®）」や、高性能プラスチックの「デュレタン®（Durethan®）」と「ポカン®（Pocan®）」といった高性能な製品を提供することで、車の軽量化、低燃費化、CO2 排出量削減に貢献していきます。

2016 年は、ランクセスグループ一丸となって、今後の成長に向けた戦略的基礎を明確にし、有機的成長の実現と事業ポートフォリオの拡大という次の段階へと取り組んでまいります。

最後になりましたが、皆様方のご多幸とご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

ランクセス株式会社代表取締役社長
辻　英男

#　　#　　#

ランクセスについて:
ランクセスは、世界 29 カ国で事業を展開する大手特殊化学品メーカーです。2014 年の総売上は 80 億ユーロにのぼり、全世界の従業員数は約 16,300 人、世界中に 52 の拠点を展開しています。主な事業は、プラスチック、合成ゴム、中間体、特殊化学品の開発、製造とマーケティングです。ランクセスは、持続可能性に優れた企業を選定する「ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス」のワールド・インデックス（DJSI World）および「FTSE4Good」の構成銘柄です。
ランクセスについての詳細は同社 URL にてご確認下さい。
www.lanxess.co.jp

本件に関するお問い合わせ先:
ランクセス株式会社　コーポレートコミュニケーションズ
TEL : 03-5293-8005　FAX : 03-5219-9773
lanxess.japan@lanxess.com

免責について (Forward-Looking Statements):
このニュースリリースには、ランクセス経営陣による現在の仮定と今後の予測に基づく記述があります。既知あるいは未知の各種リスクや不確定性、その他の要素により、本頁に記載された予測と弊社の今後の総合売上高、財務状況、業績の数字が異なる場合があります。弊社は、ニュースリリースの記載事項を更新、もしくは今後の出来事や進展状況に合わせ、内容を変更する義務はないものとします。